

Campus Magazine

楽しいことい～っぱい！
遊びに来てね！！



モーリーとリンリン®

開学 **20** 周年 健康とともに20年 ～未来につなぐ地域の健康～

開学20周年記念特集号発行に向けて



本学は、「青森県に保健医療福祉の大学を！」という、地域の方や専門職の方たちの熱い思いからできた大学です。おかげさまで、学部卒業生は3,200人、大学院修了生は220人をこえました。卒業生／修了生、後援会の皆さま、地域の皆さま、たくさんの方々がこの大学を育ててくれました。これからも保健医療福祉をリードする地域の大学として、がんばっていきます。ぜひ力を貸してください。そして保健大学をどうぞかわいがってください。

学長 上泉 和子



今年度は、開学20周年記念特集号として、従来の春号、秋号の発行に加え、夏号、冬号を発行し、本学にゆかりのある方々からいただいたメッセージなどをお伝えする予定です。

オープンキャンパス

平成30年**8月5日(日)** 10:00~15:00(受付開始9:30)

※予約制ではありません。

多くの方のご来場をお待ちしております。

■プログラム■(予定)

- 学科紹介 ●模擬講義 ●展示コーナー
- 実習体験・実験コーナー ●サークル紹介
- 在校生による個別相談コーナー



看護学科



理学療法学科



社会福祉学科



栄養学科

大学祭

平成30年**10月6日(土)・7日(日)**

※どなたでもお気軽にお越しください！



保護者等(後援会)懇談会

平成30年
10月6日(土)



平成29年度卒業証書・学位記授与式

平成30年3月7日(水)

平成30年3月7日(水)、本学講堂において、学部卒業生225名、博士前期課程修了生7名、博士後期課程修了生2名に、卒業証書・学位記が授与されました。

27年度から本学では、卒業生(修了生)全員に「アカデミックガウン」を着用させることとしました。これは、卒業生(修了生)に、専門職業人としてだけでなく、学問を修め学位を取得することへの自覚と責任を持ってもらいたいという想いから導入したものです。

式では、上泉学長から、各学科(課程)の卒業生(修了生)代表者に卒業証書・学位記が授与されました。人生初の学位授与に臨んだ学部卒業生らは、学術的な慣

例に従いアカデミックキャップ(帽子)のタッセル(房)の位置を右から左に替え、学位を授与された証を示しました。

学長は式辞の中で、「いまここにあることを大切に、みなさんが今この時をひとと共により、希望とときめきをもって未来に進んでいくことを、こころから応援しています。」との激励の言葉を卒業生(修了生)に贈りました。

ここに謹んで、卒業生(修了生)の皆様のご卒業(修了)を祝すとともに、本学で学んだことを糧に、それぞれのフィールドでご活躍されることを心よりお祈り申し上げます。



平成30年度 入学式

平成30年4月3日(火)

青森県立保健大学講堂において、平成30年度入学式が行われ、健康科学部238名・健康科学研究科16名の新たな仲間を迎えることとなりました。

これからの大学生活に期待を膨らませる新入生と、それを見守る保護者や来賓の方々、本学の教職員が待ち受ける中、ステージの幕が上がり、開式の辞が述べられました。

新入生の名前が一人ひとり読み上げられ、緊張と期待に満ちた声で返事をする新入生の姿が印象的でした。全員の入学が許可された後、上泉学長から、新たな学生生活への励ましと、“健やか力(ヘルスリ

テラシー)”の向上をサポートできる人材になってほしいとの期待の言葉が述べられました。入学生代表宣誓では、石田彩花さん(社会福祉学科1年生)が新入生を代表して、一人ひとりの健康と生活の向上に貢献できる人材となるため日々精進することを誓いました。

新しい仲間を迎えての新たな1年が今年も始まります。本学で積んだ経験の一つひとつが、数年後の彼らの大きな成長と夢の実現へと繋がっていく、その一歩を踏み出した記念日であることを感じさせてくれる入学式でした。

新入生宿泊研修

平成30年4月7日(土)~8日(日)



学生自治会長
大里 真友子さん

学内及び青森県平川市の南田温泉ホテルアップランドにおいて、一泊二日の新入生研修会をおこないました。この研修は、新入生が同級生、上級生、教職員と交流することで、友好関係や信頼関係を築くこと、また、新生活での不安の解消を目的としています。

今回の研修には、学生自治会の9名と、各学科の上級生23名の、合わせて32名が研修サポーターとして参加しました。初日は、学生自治会によるアルコールハラスメント防止の講演と、栄養学科の上級生による健康的な食生活をテーマにした講演が行われました。普段は、先生や外部からの講師による講演ですが、今回は、学生が主となって企画し、資料を作成し、講義を行いました。学生目線の内容に、新入生をはじめ、上級生や教職員も興味深そうに聞き入っていました。

た。初日の夜は、学科別自由討論が行われました。これは、上級生が中心となり、新入生の生活上の不安や疑問を話し合いながら、アドバイスをしていくというものです。砕けた雰囲気の中で行われ、いろんな場所から笑い声が起こります。新入生と上級生は、この場で互いの距離を縮め、信頼関係を築いていました。二日目の自治会企画のレクリエーションでは、学科混合の班で、ゲームやクイズで獲得したポイントを競います。学科を超えた交流をしながら協力していくことで、また新しい友達と出会っていました。

今回の研修で、私は、アルコールハラスメントの講義を担当しました。学生なので説得力があるのか不安でしたが、講義中に新入生の反応を見ると、楽しんでくれていて、とても安心しました。新入生のみなさんも今回の研修を機に、充実した大学生活を送れることを願っています。(学生自治会長 大里真友子)



平成30年度 学生寮

レジデントアシスタント一同

こんにちは!保健大学学生寮「あずまし寮」で寮長を務めております、角掛那奈と申します。この寮の名前の由来は、津軽弁の“あずましい”からきています。“あずましい”とは、「落ちついていて心地よい」という意味を持っています。この名前の通り、現在、あずまし寮では2年生のレジデントアシスタント5名を含む88名の学生が笑顔の絶えない楽しい寮生活を送っています。

私自身、寮生活を1年間経験してきて、寮生活の楽しい面、大変な面など、さまざまなことを学ぶことができました。同学科だけではなく、他学科の友人ができる反面、慣れない共同生活のマナーや

ルールに、初めは苦戦しました。ですが、優しい友人や学生寮アドバイザーに支えられ、共同生活が楽しいものとなりました。あずまし寮では年に3回、レクリエーションを開催しています。そのため、違う階の友人もでき、良い交流の機会になります。このように、あずまし寮に入寮してよかったと思う出来事がたくさんありました。

今年度は、2年生のレジデントアシスタント5名が、あずまし寮のさらなる発展のため、尽力していきたいと思っています。(レジデントアシスタント兼寮長 角掛那奈)



平成30年度レジデントアシスタント委嘱式にて

寮長	栄養学科2年	角掛 那奈さん(右から2人目)
副寮長	看護学科2年	印南 紗来さん(右端)
副寮長	看護学科2年	與儀 満里奈さん(左から2人目)
会計	社会福祉学科2年	米澤 世菜さん(左端)
会計	看護学科2年	平舘 柚来さん



新入生の近況報告

看護学科



木立 光 さん

入学してから約1か月が経過しました。不安と緊張に追われていた日々にも少しずつ慣れ始め、今では充実した大学生活を送っています。

4学科共通の授業では、保健・医療・福祉の専門的知識に限らず、学生として、社会の一員として、あるべき姿勢を学ぶことができ、改めて青森県立保健大学の良さを実感しました。また、講義等を通して高校時代では想像もなかった、看護学の面白さや不思議さを実感し、看護に対する興味・関心が高まりつつあります。

これからの4年間、授業はもちろんのこと、サークル活動やボランティア活動などの貴重な時間を無駄にすることなく、多くの経験を積み、看護職としてあるべき姿を確立していけるよう、努力し続けていきたいと思えます。

社会福祉学科



佐藤 駿 さん

この青森県立保健大学に入学し、既に一か月が経過しました。入学当初は勉強についていけないか、友人はできるかなど多くの不安を抱えていましたが、その不安は徐々に解消し、今は多忙ながらも充実した毎日を送っています。

この大学の魅力でもある四学科の合同授業や宿泊研修、サークル活動を通して同じ学科の同級生だけではなく、他学科の同級生とも関わりを持つことが出来ました。特に合同授業は自分とは異なる分野の知識、視点などを持った相手と話し合うことなどが出来るため、自らの視野を広げ、見聞を深めることが出来ました。さらに先輩方も親切で積極的に関わってくださり、大学生活や一人暮らしをするうえでのアドバイスを多く頂きました。これらのことが抱えていた不安を解消してくれたと思っています。

こういった人との関わりを大切に、ただ日々を浪費するのではなく、自分の将来の目標に到達するための自助努力を怠らず頑張っています。

理学療法学科



新留 温大 さん

私は、鹿児島県からこの青森県立保健大学に入学しました。鹿児島とは全く違う気候に慣れていけないのか、また友達はできるのだろうかという入学前はとても心配で、楽しみははずの大学生活に対して不安ばかりが募っていました。しかし、寮に入っていたこともあり、当初の心配が嘘のように消えていきました。また、「鹿児島から来た」ということを伝えると周りの人たちが驚いて、同じ学科だけでなく他の学科の人とも仲良くなることができました。このように友達作りという面ではうまくいきましたが、学習面では専門的な授業やスピードの速さにまだついていません。早く大学の授業に慣れ、専門知識を増やし、患者さん、または、周りの人に信頼されるような理学療法士になるためにも、保健大学で理学療法について、深く学びたいです。大学生活にも、青森での生活にも、慣れるには時間がかかりそうですが、有意義な大学生活が送れるように、日々努力していきたいと思えます。

栄養学科



伏見 愛 さん

出身の五所川原高校に通っていたのが、つい昨日のように感じますが、大学に入学してもう一ヶ月が経ちました。入学前は不安なことばかりでしたが、学校生活にも少しずつ慣れ、忙しいですが充実した楽しい日々を送っています。

入学後すぐにあった新入生宿泊研修では、先輩たちから学校生活や授業に関するアドバイスを頂き、これからの生活について深く知ることができました。また、四学科合同の授業や寮生活を通して他県出身や他学科の友人もでき、

高校とは別の刺激があるので、毎日の予習・復習に力を入れ、互いに励まし合いながら勉学に取り組みたいと思えます。

勉強をし、知識や技術を身につけるのはもちろんですが、サークル活動やアルバイトなど大学生ならではの様々な経験をしてコミュニケーション能力を養い、人の心に寄り添える管理栄養士になれるよう努力していきます。

学生生活サポート

学生を支援する体制について



学生部長
杉山 克己

学校教育法を根拠とし、大学では「学生」という言葉を用います。「学生」という言葉には「学問をする者」という意味が込められています。単に正解のある知識を身につけるだけでは済まない、知的な活動が求められます。本学はその為の設備、カリキュラム、教職員等を整えています。

更にそれだけではなく、安心して学問し続けられる為の様々な相談支援、授業料減免などの経済的支援、そし

て心身の健康を保持増進するための仕組みなども大切な事柄です。そして「学生」ならではのサークル活動や大学祭、あるいは様々なボランティア活動やアルバイトなど、社会活動・経験も視野を広げる重要な要素となるでしょう。これらに関わるリスクを低減する仕組み（各種保険）等も含めて、全体として教育・学修支援の全体が学生を支援する体制となっています。もちろん、これには保護者の皆様のご協力・ご支援も欠かせません。是非、今後ともよろしくお願ひいたします。

学生の心とからだを支えています



保健嘱託員
齋藤 真紀子

- 体のこと** 頭痛が続く。体がだるい。咳が止まらない。朝なかなか起きられない。過呼吸ぎみになる。など
- 心のこと** やる気が起こらない。気持ち折れる。イライラする。だまっても涙があふれ出る。自分の性格に悩む。孤独感。いじめにあっている。など
- 対人関係** 友だちとうまくいかない。集団の中だと疲れる。人の目が気になる。人前だと緊張してしまう。相手の言いたいことがわからない。恋愛問題。など
- 学業一般** 勉強の仕方がわからない。集中が続かず課題がこなせない。単位や履修のこと。課題が多くて優先順序がつけられない。時間内にノートがとれない。など
- 生活全般** 物が見えづらい。音が聞きづらい。段差・階段利用が困難。雑音が気になる。家庭・経済上の問題。下宿・アパートの問題。サークルやアルバイトの問題。など

困ったときは
とりあえず
保健室へ！

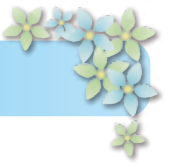


心と体は一体です。心配ごとがあると、体も不調になることがあります。上記のような困りごと、がまんしていることを、どこに相談したらよいかかわからず、悩んでいることはありませんか？保健室は、あなたに寄り添い、そして一緒に考えていきます。

保健室が窓口となり、カウンセラー（臨床心理士）や学科の教員、場合によっては教務学生課とも連携し、個人情報に配慮しつつ、状況の改善に努めます。

一人で悩まず、周囲のサポートを受けながら、実りある大学生活にしていきましょう。

*カウンセラーによる学生相談は、週1回、11時から15時の間です。臨床心理士の岩田彩子さんが、C棟1階のカウンセリング室に待機しています。相談希望者は、保健室が窓口になっていますので、連絡してください。



看護学科



在宅看護援助論

3年後期の授業で、看護過程や医療技術について演習を行います。グループに分かれ意志伝達装置を使ったコミュニケーションについて学んでいる場面です。



アドバンス小児ヘルスケア

県内の療育福祉センターを見学し障がいのある子どもと触れ合い、支援方法や多職種との協働について理解を深め、臨床や地域における小児ヘルスケアについて学びます。



看護学科長
鳴井 ひろみ

新カリキュラムにおける看護学科の取り組み

看護学科は、看護の専門職である「看護師」「保健師」「助産師」を養成する学科であり、人間の生涯にわたる健康生活と地域特性を踏まえた社会的ニーズに対応できる人材を育成します。看護を提供する場では、適切な人間関係を保つこと、相手の気持ちを尊重できるなど、人間として成熟した人材が求められています。今年度から新カリキュラムがスタートし、看護学科では、1年次から看護学の関心を高めるため、段階的に科目を配置し、実習においても早期から経験できるよう様々な人との関わり方を学べるようにしています。また、学生が主体的に講義に参加し、疑問をもち、解決・実践していく力を養えるよう様々な工夫をして取り組んでおります。学生の支援体制としては、本学科には教員が44名所属し、1学年100名以上の学生に対し、担任制とチューター制を導入し、学生一人ひとりを見守る体制、就職および国家試験に対する支援体制を強化しています。

保護者および地域の皆様、同窓生の皆様とともに手を携えて、地域の人々の健康に寄与できる人材育成に努めてまいりますので、今後ともご支援をお願い申し上げます。

平成29年度卒業生 近況報告



中津地域県民局地域健康福祉部
保健室(弘前保健所)健康増進課
保健師 富岡 諒さん

みなさんこんにちは！私は現在、弘前保健所にて保健師として従事しています。業務としては、喫煙対策事業と歯科保健を担当しています。入社して1か月、まだまだわからないことや自分の未熟さを感じながらも、温かい環境で先輩方の指導のもと一人前の保健師を目指して頑張っています。

在校生のみなさん、学生生活は講義や実習など忙しい日々を送っていると思います。しかし、学生生活で学び身につけた知識や技術は必ず現場で生かすことができます。辛い時は今が踏ん張り時と思って頑張ってください。みなさんの活躍を応援しています！

理学療法学科



筋・骨格系解剖学実習

運動器系(骨・関節・筋)と神経系を中心に、人体標本や組織標本などを観察し、本質を理解する(科学する)能力、および人体の三次元的な構造の理解を深めます。



物理療法学実習

理学療法の手段の一つである物理療法の各治療法を、物理療法機器の操作・保守・安全管理、および物理療法施行によって発生した生体反応などについて学びます。



理学療法学科長
神成 一哉

理学療法学科では専門的知識・技術と豊かな人間性をもった理学療法士の育成をめざしています

本学科では、理学療法士として社会で活躍したいという学生の皆さんの夢を実現すべく、1学年30名の少人数定員に対し17名の専任教員という充実した体制で、最新で高度な理学療法の知識と技術を身につけられるよう丁寧に指導しています。また理学療法についての臨床能力を高めるために、演習形式の授業の展開や学外実習施設と連携した臨床実習を充実させています。一方、周囲から信頼されるヒューマンケアに根ざした理学療法士となるには、幅広い教養と豊かな人間性を育むことも大変重要です。4年間の学生生活では、専門領域の勉強だけでなく、何にでも興味を持って積極的に色々なことを吸収して欲しいと思います。本学科では、学生の様々な相談に親身に応じるために各学年2名の教員による担任制をとって、学生生活支援にも力を入れています。

平成29年度卒業生 近況報告



八戸市立市民病院
理学療法士 原田 怜さん

八戸市立市民病院は、整形、脳血管障害、心臓、癌、呼吸、廃用症候群など幅広くリハビリを行なっています。業務内容は、評価、計画の立案、リハビリの施行、カルテ記載、書類作成(実施計画書、転院先へ情報提供書など)、勉強会の参加、症例発表などです。勉強会もあり積極的に学べる機会が多くあります。急性期病院のため、リハビリ以外に書類作成なども多いですが、先輩方も優しく学びやすい環境のためとてもやりがいのある職場だと思います。

社会福祉学科



社会福祉学概論Ⅰ

1年生前期に配置されている授業で、社会福祉の基本的な考え方や歴史を学びます。社会の様々な事柄を捉える多様な視点を学ぶことで、社会福祉学の研究につなげていく導入的な講義です。



精神保健福祉援助演習Ⅱ

4年生で精神保健福祉士としての専門的な実践について体験的に学ぶ授業です。演習形式は、学生と教員とがコミュニケーションを取りやすく、実践を想定したトレーニングによって、専門的な実践技術の修得を目指します。



社会福祉学科における学び

社会福祉学科では、社会福祉の専門家として必要な知識を講義から得ることができます。また、演習をとおして、専門的な援助の技法を学ぶことができます。講義や演習は、少人数制の特徴を生かして、段階的に、無理なく進められております。

社会福祉学科長
大山 博史

本学科では、教員が専門分野を生かし、地域に貢献していることも特徴です。これらの教員の指導の下、学生自身が3年生から卒業研究に着手します。社会福祉の理論や歴史的側面、支援に関する実証研究などに触れ、社会福祉のグローバルな知見と実践の統合を図ることができます。また、国家資格である「社会福祉士」と「精神保健福祉士」の養成を担っており、国家試験合格率は全国でトップクラスを維持しています。本学科の就職率も非常に高い水準にあり、卒業生は福祉、医療、行政等の現場で活躍しています。

保護者や同窓生の皆様、地域の方々には、今後も社会福祉学科へのご支援をお願い申し上げます。

平成29年度卒業生 近況報告



社会福祉法人ぶさん会
柿の木苑 生活支援員
中新田 志織さん

4月から、八戸市にある柿の木苑で生活支援員として働いています。まだ配属先が決まっておらず、主な事業である生活介護・就労継続支援B型・放課後等デイサービスで研修をしています。初めての事ばかりで覚える内容もたくさんありますが、大学の授業や実習で学んできたことを活かし、先輩方に指導していただきながら、一生懸命取り組んでいます。

柿の木苑では就労支援の一環としてカフェを営業しています。秋には、法人のまつりもありますので、是非お越しください！

栄養学科



生化学実験Ⅰ

酵素活性の測定、糖質や脂質の抽出・同定およびたんぱく質の分離などの実験を通して、生化学の講義で学んだ内容を実証しながら、生命現象に欠かせない栄養素の特徴や性質をより深く理解し、説明できる能力を身に付けます。



臨床栄養学実習Ⅱ

臨地実習を見据えて生活習慣病の栄養指導や入院患者の栄養管理について実習します。写真は、患者シミュレーターを用いて、バイタルサインを確認し、それらの情報を栄養管理にどのように役立てるのかを実習している様子です。



栄養学科長
今 淳

栄養専門職は正に天職です。 我々教員は責任をもって 学生諸君を鍛えます。

適切な量と質の食物を経口摂取し、消化・吸収及び代謝が正常になされている場合に、私達は健康を維持できます。しかし、このプロセスのどこかに異常を来すと、病気に陥って死に至ることになります。このような状況では、たとえ医師から最高の医療を受けても、もはや完治は望めません。では、この問題を解決してくれるのは一体誰なのでしょう。管理栄養士などの栄養専門職者。それが答えです。栄養専門職者こそ、このプロセスを完璧に是正でき、疾病の治療・予防、健康保持のための基盤を私達の体内に築き上げることができる唯一のプロなのです。この基盤ができてこそ医師による治療が功を奏するのです。基盤ができていなければ治療は砂上の楼閣であり、脆くも崩れ去ってしまいます。即ち栄養専門職は私達の命の源を司っており、正に天職なのです。栄養専門職を目指す学生諸君は、このことを決して忘れず、誇りと気概をもって頑張ってくださいと思っています。

そのために私達教員は、学生諸君が最高のレベルの能力を身に付け、将来、最高のレベルの医療を提供できる栄養専門職へとなるよう、責任をもって徹底的に厳しく鍛えることを約束します。志を持つ多くの学生諸君が決して挫けずに精進し、青森県、日本、そして世界の中心へと飛躍して行くことを大いに期待しています。

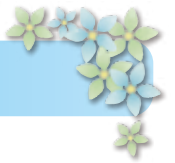
平成29年度卒業生 近況報告



新潟市役所 農林水産部
食と花の推進課
岩城 舞子さん

私は新潟市役所農林水産部食と花の推進課に勤務しています。主に食育担当として、こども食育新聞の作成、食育の日の企画・運営、クックパッドへのレシピ投稿などを担当しています。まだまだわからないことはたくさんありますが、食育に携わることができて、とても楽しいです。公衆栄養分野に興味のある方は、在学中にいろいろな地域の食育活動について調べておくと、就職後にも活かすことができると思います。

みなさんのこれからの活躍を応援しています！



後援会会長
齋藤 勝博

後援会会長あいさつ

後援会会員の皆様には、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

本学は今年で20周年目を迎え、「健康とともに20年～未来につなぐ地域の健康～」を20周年のテーマとして掲げ、地域の“健康と福祉”の未来をリードする大学として、その存在感を高めております。

後援会では、新入生研修や学生の福利厚生、大学祭や

サークルなどの活動、卒業研究の助成等、学生が大学に入学してから卒業するまでのさまざまな場面で学生に対する支援を行っております。

後援会会員の皆様のご理解とご協力のもと、後援会では、これからも学生の成長を温かく見守っていきたくと考えておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

平成30年度青森県立保健大学後援会役員名簿

会長	齋藤 勝博 (看護学科2年)	理事	村上 玲奈 (理学療法学科2年) 舘山 久子 (社会福祉学科1年) 嵯峨 真紀 (栄養学科1年)
副会長 (理事)	工藤 明子 (理学療法学科3年) 逢坂 愛子 (看護学科1年)	監事	中村 純子 (理学療法学科3年) 稲葉 愛 (社会福祉学科1年)
理事	伊藤 美香 (社会福祉学科3年) 中村 智子 (看護学科2年)	顧問	杉山 克己 (学生部長)

※()内は在学中の学生の学科及び学年です。

後援会 決算、予算

平成29年度 後援会決算書

項目	予算額(A)	収入額(B)	比較(B-A)	摘要
1 会費収入	12,052,500	12,087,500	35,000	@50,000×227人(学部学生) @25,000× 9人(編入学生:看護) @37,500× 1人(編入学生:社福) @37,500× 2人(編入学生:栄養) @20,000× 20人(大学院生)
2 前年度からの繰越金	22,892,718	22,892,718	0	
3 雑収入	328	196	△132	預金利息等
合計	34,945,546	34,980,414	34,868	

項目	予算額(C)	支出額(D)	比較(D-C)	摘要
1 会議費	63,000	21,000	△42,000	後援会総会・理事会等出席に係る役員交通費
2 事務費	130,000	122,015	△7,985	保護者等懇談会の開催案内発送費、各事業費振込手数料
3 事業費	11,807,000	11,250,217	△556,783	
(1)サークル活動助成費	1,443,000	1,292,362	△150,638	自治会活動助成費、サークル助成費
(2)大学祭等助成費	1,500,000	1,500,000	0	大学祭運営費
(3)会報誌作成費	145,000	171,005	26,005	大学広報誌(年2回)後援会負担分平成29年度まで製作費に印刷費を含んでいなかったため、増額した。
(4)学生福利厚生費	1,540,000	1,540,948	948	肝炎検査、貧血検査、実習に係る諸検査費用
(5)国際交流助成費	50,000	31,299	△18,701	
(6)就職対策費	320,000	307,795	△12,205	4年生対象ガイダンス、3年生対象ガイダンス
(7)卒業関係・国家試験対策関係助成費	3,720,000	3,555,000	△165,000	卒業関連事業助成、卒業研究助成、特別・課題研究助成
(8)新入生研修費	2,517,000	2,460,500	△56,500	新入生に対する学内研修及び学科別交流に要する昼食代等
(9)アカデミックカウンタクリーニング	522,000	345,708	△176,292	卒業(修了)式・学位記授与式着用分のクリーニング代 平成30年度は大学の事業費として支出
(10)その他	50,000	45,600	△4,400	大学院生関連事業
4 予備費	52,000	0	△52,000	
小計	12,052,000	11,393,232	△658,768	
5 次年度以降事業費	22,893,546	23,587,182	693,636	
合計	34,945,546	34,980,414	34,868	

※次年度への繰越金 23,587,182円(総収入 34,980,414円-総支出 11,393,232円)

平成30年度 後援会予算書

項目	(A)29年度予算	(B)30年度予算	比較(B-A)	摘要
1 会費収入	12,052,500	12,102,500	50,000	@50,000×230人(学部学生)(大学予算案ベース) @25,000× 10人(編入学生:看護) @37,500× 1人(編入学生:社福) @37,500× 2人(編入学生:栄養) @20,000× 12人(大学院生)
2 前年度からの繰越金	22,892,718	23,585,139	692,421	
3 雑収入	328	196	△132	預金利息等(前年度実績ベース)
合計	34,945,546	35,687,835	742,289	

項目	(C)29年度予算	(D)30年度予算	比較(D-C)	摘要
1 会議費	63,000	27,300	△35,700	後援会総会・理事会等出席に係る役員交通費
2 事務費	130,000	135,000	5,000	保護者等懇談会開催案内等送料、各種振込手数料 ※平成30年2月1日(木)から各種手数料改定により増加したため、平成29年度の執行額を参考に算出
3 事業費	11,807,000	11,179,000	△628,000	
(1)サークル活動助成費	1,443,000	1,375,000	△68,000	自治会活動助成費、サークル助成費
(2)大学祭等助成費	1,500,000	1,500,000	0	大学祭運営費
(3)会報誌作成費	145,000	172,000	27,000	[活彩!保健大学だより]作成・発送費の後援会負担分 平成29年度まで製作費に印刷費を含んでいなかったため、増額した
(4)学生福利厚生費	1,540,000	1,785,000	245,000	肝炎検査、貧血検査、実習に係る諸検査費用
(5)国際交流助成費	50,000	0	△50,000	平成30年度以降は申請があった場合、検討する
(6)就職対策費	320,000	0	△320,000	学科別ガイダンス、ワークショップ 平成30年度以降は大学の事業費として支出
(7)卒業関係・国家試験対策関係助成費	3,720,000	3,771,000	51,000	卒業関連事業助成、卒業研究・国家試験対策助成 修了関連事業助成、特別・課題研究助成
(8)新入生研修費	2,517,000	2,526,000	9,000	新入生の学外での宿泊研修に係る宿泊費等
(9)アカデミックカウンタクリーニング	522,000	0	△522,000	卒業(修了)式・学位記授与式着用分のクリーニング代 平成30年度以降は大学の事業費として支出
(10)その他	50,000	50,000	0	大学院生入学時間関連事業
4 予備費	52,000	52,000	0	慶弔費など
小計	12,052,000	11,393,300	△658,700	
5 次年度以降事業費	22,893,546	24,294,535	1,400,989	
合計	34,945,546	35,687,835	742,289	

退職・新任の教員から 一言メッセージ

退職

看護学科

● **櫻庭 奈美**
保健大学生の学習に対する真摯な姿勢と教員の皆様の教育への熱意、バックアップのおかげで充実した教員生活が送れました。ありがとうございます。皆様のますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

● **戸沼 由紀**

理学療法学科

● **羽入 辰郎**
この大学に来て良かったことは、皆さんが卒業後現場に出た時、実際にぶつかるであろうような具体的な倫理学を講義出来たことです。私自身、社会福祉の現場にいたことがあり、現場での倫理的ジレンマは体験してきました。卒業後、あの教師が言っていたのはこのことだったんだ、と思い起こして下さることがもしあったとしたならば、私としては本望です。

社会福祉学科

● **加賀谷 真紀**
開学から19年間、保健大学教員として勤務させていただき感謝申し上げます。今後は、在職期間に培った「厳しさの中にある本当の優しさ」や「倫理観の大切さ」を胸に日々精進したいと思います。ありがとうございました。

栄養学科

● **草間 かおる**
学生、教職員の皆様と共に歩むことのできた5年半でした。初めは青森の寒さに負けそうにもなりましたが、皆様の暖かさ（熱さ？）に励まされ、充実した日々を過ごすことができましたことを心より感謝いたします。

新任

看護学科

● **反町 吉秀**
ご入学おめでとうございます。新任の反町吉秀です。新入生の皆さんが、ヒューマンケアを実践できる人間性豊かな専門職になれるよう、フレッシュな気持ちでサポートしたいと考えていますので、宜しくお願いします。

● **倉内 静香**
4月に着任致しました倉内静香です。専門は公衆衛生看護で、地域に住む方々の健康支援について研究しています。健康に関心の無い方にも健康知識を普及できるか、学生さんと一緒に考えていきたいと思っています。

● **山本 明子**
4月から着任しました、在宅看護学の山本です。訪問看護ステーションや医療機関で勤務してきました。学生の皆さんが在宅看護の楽しさを感じてもらえるよう頑張っていきたいと思っています。宜しくお願いいたします。

社会福祉学科

● **宮本 雅央**
4月から地域福祉に関する科目を担当致します宮本と申します。学生とともに学ぶ姿勢を大切に、地域に貢献したいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

● **葛西 孝幸**
本学社会福祉学科卒業後、医療ソーシャルワーカーとして15年間医療機関に勤務しておりました。現場経験を活かし、実践力を身に付けることができる本学の発展、さらには青森県の保健医療福祉の発展に貢献できるように努めて参ります。

栄養学科

● **三好 美紀**
主に公衆栄養学関連科目を担当させていただきます。2011年より本学博士後期課程でお世話になっていました。皆さんがグローバルな視野を持って地域をみつめる一助となりうよう努力していきたいと思っています。

ヘルスリテラシーコラム



本学では、「ヘルスリテラシー推進」という命題を平成26年度に掲げ、そのための事業に取り組み、今年度で4年目に入りました。ヘルスリテラシーとは、自らの健康に関する情報を入手・理解・吟味・活用する能力を指しますが、近年この能力が健康や寿命を左右することが示されてきました。大学が、住民のヘルスリテラシー向上に取り組むというのは、これまで例をみなかったチャレンジです。とはいえ、本学の使命が、ヒューマンケアの人材育成にあり、その先に見据える目的が、人々の健康にあることを考慮しますと、この試みは、まさに本学の使命の線上にあるでしょう。この3年間、「健やか力向上サポート宣言」を初めとして、さまざまな活動を行ってきましたが、事業の中核は、ヘルスリテラシー向上に資する人材育成です。そのため、カリキュラムにヘルスリテラシー関連の科目を充実させ、大学院では昨年度から、学部で

は今年度から、新カリキュラムがはじまっています。さらに学生や教職員による住民支援の事業が、公募により毎年数件採択され、学生が主体となって活動しています。また、「公開講座等のテーマで取り上げる」、「関連図書をブックフェアで紹介する」、「地域の関連活動を支援する」、「イベントや大学祭にもコーナーを設ける」など、多角的な事業を展開してきました。学術的な面でも、ヘルスリテラシー関連の研究を支援し、大学主催の研究会や学会でメインテーマに据えるなど、積極的に取り組んできました。こうした試みは、ホームページ：「マルホ健やかナビ」（トップ上にバナーがあります）にも随時反映させておりますので、ご参照いただけますと幸いです。事業としては、来年度、5年の区切りで評価する予定です。その評価を見据えつつ、今年度もさまざまな事業を行ってまいります。

平成30年度 年間スケジュール

4月	5月	8月	9月	10月	11月	1月	3月
 入学式(4/3)	公開講座 広報誌(春号)発行	 ケア付きねぶた		 大学祭(10/6,7) 保護者等(後援会)懇親会(10/6)	広報誌(秋号)発行		 卒業証書・学位記授与式(3/7)
 新入生研修(4/7,8)	6月 7月 前期試験	 オープンキャンパス(8/5) 広報誌(夏号)発行	集中講義 後期スタート(9月末)		12月	2月 集中講義 広報誌(冬号)発行	

国家試験結果と卒業後の進路について

国家試験合格率

看護学科

看護師 98.0%
受験者 100名 合格者 98名

保健師 93.3%
受験者 30名 合格者 28名

助産師 100%
受験者 9名 合格者 9名

理学療法学科

理学療法士 93.5%
受験者 31名 合格者 29名

社会福祉士の合格率は
全国第2位
(受験者50名以上の学校54校中)
でした。

社会福祉学科

社会福祉士 79.2%
受験者 53名 合格者 42名

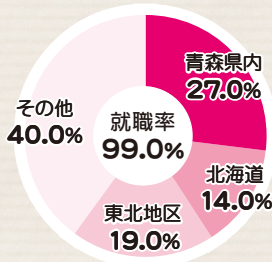
精神保健福祉士 100%
受験者 7名 合格者 7名

栄養学科

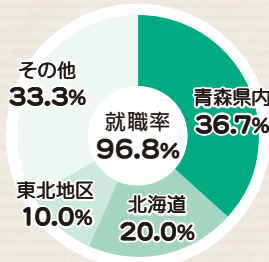
管理栄養士 97.1%
受験者 34名 合格者 33名

就職率 平成30年3月末時点

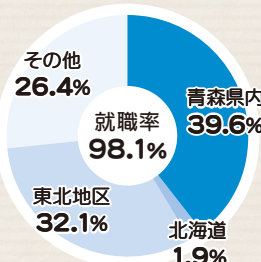
看護学科



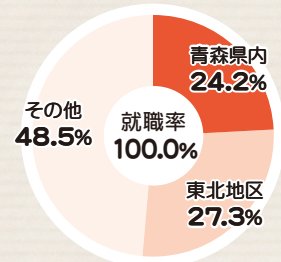
理学療法学科



社会福祉学科



栄養学科



今年の就職合同説明会



春季就職合同説明会
には県内外から170の
事業所が参加して
くれたよ!



● **春季就職合同説明会**
(看護・社会福祉・栄養学科対象)
4月14日(土)
11:00~15:00
青森産業会館



● **夏季就職合同説明会**
(理学療法学科対象)
7月21日(土)

● **秋季就職合同説明会**
(社会福祉学科・栄養学科対象)
10月27日(土)

COC+事業

「女子学生のキャリア支援プログラム」のご紹介

平成27年から弘前大学が代表校で「オール青森で取り組む「地域創生人財」育成・定着事業」が展開されています。この事業には、県内の主な大学・県・市が参加しており、本学も協定を締結し、「女子学生のキャリア支援教育プログラム開発」のリーダー校として、他大学とともに事業に取り組んでいます。

女性は職業、勤務する場所、仕事を続けるか等を決めるにあたり、仕事と生活とのバランスで悩み、困難を抱くことが多い現状にあります。私たちは、学生が自身の働き方や生き方、将来の社会構造について適切、かつ具体的なイメージを持ち、その上で、青森県や地元への就職を望み、希望する生き方・働き方をしながら定着することができれば理想的であると考えています。これまでに学生向けセミナー「くらす?はたらく」や、企業向けセミナー「採用力向上セミナー」などを開催し、高い評価を受けております。昨年はキャリア・生活指向と就業先選択に関するアンケート調査結果をリーフレットにまとめました。今後も意欲的に事業展開していきますので、ご注目いただけますと幸いです。



学生セミナー「くらす?はたらく」
Session2 ~お金?時間~



成果報告リーフレット

本学大学院へのお誘い



大学院健康科学研究科長
佐藤 伸

将来、専門分野での職業人として働きたいとお考えの皆様、卒業後の進路として、さらに高度の専門知識と研究力を身につけることができる「大学院」も将来の選択肢の一つとしていかがでしょうか。

本学の研究科の特徴は、他大学ではあまりみられない、多職種との連携や専門分野を超えた学際的研究の推進をめざした「保健・医療・福祉政策システム」「対人ケアマネジメント」「基礎研究・実用技術」の3つの研究領域を設けていることです。また、県内で唯一のがん看護のスペシャリスト(がん看護専門看護師)の養成コースも開設して

います。さらに、自らの研究や学びをいっそう深めていけるように、柔軟な授業科目の選択や社会人が受講できるよう週末も開講しています。

本学の大学院で培った豊かな専門知識と研究力は、高度専門職業人として将来の目標を達成させるためにきっと役立つことと思います。ともに学び、研究する楽しさやわくわくする気持ちを共有できる皆様をお待ちしています。

コース・カリキュラムの詳細や年2回の入学選抜(10月、2月)については、5月下旬にホームページや大学院案内でお知らせするとともに、オープンキャンパス等でもご案内いたします。

発行：青森県立保健大学 広報委員会・青森県立保健大学 後援会



公立大学法人 AOMORI UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE

青森県立保健大学

〒030-8505

青森県青森市大字浜館字間瀬 58-1

電話 017-765-2000(代表)・FAX 017-765-2188 URL <https://www.auhw.ac.jp/>